【校長室便り】

No, 5

H３０年４月２４日（火）土佐町小中学校　谷内宣夫

今、日本の教育が変わっています。

今・今後、日本の企業・会社が求めている人材はどのような資質を身に付けている人物か？それは大きく２つです。

①知識や情報を集めて活用し、自分の考えを導き出し、様々なことに柔軟かつスピーディーに対応することのできる能力を身に付けている人物です。

②チームを組んで特定の課題に対応し解決させることができる能力を備えている人物です。

単に知識をたくさん身に付けているだけでは使えない。知識が豊富なことは大切ですが、それ以上に、知識を活用して問題を解決させることができる能力を備えていなければならないということです。アメリカの学者（キャシー・デビドソン）が言っていることも紹介します。

「これからの社会はＩＣＴ産業の進化やグローバル化、少子高齢化等が加速的に進み、変化が激しく、２０２５年頃（５～６年後」には、その就職先の６５％は現在存在しない職業になるだろう」また、日本の学者が「２０３０年には現在の職業の６０％以上はＡＩ（人工知能を備えたロボット）が担当しているだろう」と言っています。

まさに現在、小・中学生の皆さんが、ちょうどその変化の激しい時代に学生生活を終え、社会に旅立つ時期なのです。

このように皆さん方に求められているのは、「実社会で通用する力」「社会で活用できる力」を身に付けた人間なのです。

また、現在の中学３年生が大学入試を受験するときには、試験問題も受験の仕方も変わっています。

平成３１年度（来年度）「高等学校基礎学力テスト（仮称）」

高校段階における学習成果を把握し、進学時や就職時に基礎学力の証明の方法の一つとして大学や企業が参考にする可能性があるテスト。（進学や就職に影響）

平成３２年（２年後）「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」高校までに身につけた知識や技能を活用して、自らの課題を発見し、その解決に向けて探求し成果を表現するために必要な思考力・判断力・表現力を総合的に評価するテスト。が行われる方向で教育改革が進んでいます。

いろんな情報を集めて活用し課題を解決していくという傾向の問題になるのです。（学力調査のB問題です）

大学入試が変わるということは、高校の授業スタイルが変わることです。高校の入試の問題も変わります。あわせて、中学校・小学校の授業のやり方も変わるのです。本校ではすでに取り組んでいます。知識をたくさん知っていればよいというスタイルのテストでなく、その知識を活用して問題を解決できるようになっていかなければならないのです。

こういう状況であるので、これからの日本の教育をどうしていくのか、その基盤となる「学習指導要領」が改定されます。この「学習指導要領」に基づいて学校の教育活動は構成されています。１年間に各教科や活動を何時間実施しなければならないか、教科の目標や内容、方法、評価の在り方等について決められています。

今回の「学習指導要領」の改定の「特徴」を紹介します。あわせて土佐町小中学校で現在取り組んでいる教育活動についても紹介します。↓土佐町小中学校で取り組んでいること

「読みとる力を育成・向上」→高知県の指定を受け、図書や新聞を通して言語能力と情報活用能力を高める取組を実践していきます。

「言語能力の育成」→根拠（理由）を伴う意見を発表できる力・情報を正確に理解し適切な表現ができる力・議論できる力を育てています。

「道徳教育の充実」→「道徳科」（小学校）「道徳」（中学校）の授業を充実させる取組を実践しています。

「外国語教育の充実」→高知県の指定を受け、英語に親しみ活用できる能力の向上を目指しています。

「伝統や文化に関する教育の充実」→総合的な学習の時間（中学校）に「地域貢献・土佐町の未来を考える・地域産業と生き方を学ぶ・土佐町をPR」等、地域の伝統文化について学んでいます。（小学校も地域とのつながりを重視しています）

以上のように土佐町小中学校は、日本のこれからの教育の流れを先取りして教育活動を実践しています。